

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670200470
法人名	社会福祉法人 緑樹会
事業所名	グループホーム おおつ
所在地	徳島県鳴門市大津町大代字戎野472番地 (電 話) 088-684-3788
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 9月 24日

## 【情報提供票より】(平成19年 9月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成17年 8月 21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算	5人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	3階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,900円, 布団セット2,000円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 月 40,000円		

### (4)利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	17名	男性	6名	女性	11名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	69歳	最高	96歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 緑樹会 津保整形外科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な田園地帯にある介護老人福祉施設おおつ苑の3階にあり、エレベーターを出ると懐かしい昭和初期の雰囲気漂っている。内部は両ユニットを見渡せる位置に職員ステーションがあり、自然に利用者の様子がわかるようになっている。また、仕切りのないアイランド型キッチンであり、利用者、職員がともに動きやすい構造となっている。管理者が看護師であり、系列医療法人の医師との連携も十分に図られ、安心した生活に繋がっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回改善事項であった利用者の「権利・義務」の明示は、契約書に明確に記載がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で自己評価を行いケアの向上にむけた取り組みがなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーはバランスのとれた構成となっている。2ヶ月に1回開催され、評価への取り組み状況等報告し、種々意見交換がなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には訪問時に意見・苦情・相談等気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮し、月に一度はメッセージカードに健康状態や暮らしぶりを記入し、写真を添えて送っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域老人会への参加や、毎日の買い物等でのマーケットの方達と交流がなされ、地域との繋がりが深くなってきている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作成された理念はホーム内に掲げられているが、地域密着型サービスとなり、事業所独自の理念の見直し、作成はなされていない。	○	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域での生活の継続的支援や地域との関係の強化を理念の柱とするよう見直しをされたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての理念の見直し、作成がされておらず、共有できるまでには至っていない。	○	運営理念の見直しを行い、理念の共有について話し合われたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回地域の老人会が併設施設で開催され、グループホーム利用者も参加し、地元の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回改善項目の利用者の「権利・義務」は契約書にきちんと記載されている。また、職員会議において報告書をもとにケアの向上に役立てていく話し合いがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、市担当者・地域包括支援センター職員、民生委員等の参加により2ヶ月に1回開催され、現状報告や意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護相談員が毎月2回来訪し、利用者の相談等受けている。また、年2回市職員を交えた報告会が開かれており、市との連携はなされている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には現状報告をし、また、月に一度、健康状態や暮らしぶり等記入したメッセージカードに写真を添えて家族に送付している。利用者個々の出納は家族に報告し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には訪問時等に意見や希望を気軽に言ってもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、利用者・家族と馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の年間研修計画が立てられ、全職員が受講できる工夫(同じ内容を施設を交替し3回実施)がされ、全職員が受講している。外部研修も習熟度に応じて受講し報告を行ない、内容を職員全員が共有できる仕組みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外の研修等に積極的に参加し、同業者と交流しネットワークづくりをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学にきてもらい、本人・家族と何度も話し合い、納得のうえで利用に繋げるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる事は本人にまかせ、できそうな事は言葉をかけながら関わり一緒に行う等、利用者の状態に応じた役割を担ってもらい、共に支えあう関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを把握し、意向の把握が困難な方は職員が話し合って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回スタッフ会議を開き協議して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定期間(3ヶ月)に応じた見直しはもとより、状態の変化による随時の見直しをおこない、内容は記録され、会議に参加できなかった職員にも内容が解るような仕組みができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっているため、利用者の負担になるような受診等は回避されている。また、外出や買い物など要望があれば柔軟に対応できるよう準備を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医以外の通院も場合によっては職員が同行するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から本人や家族の希望を確認し、重度化や終末期において本人や家族、医師、職員間で話し合い、方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう支援がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、起床や入浴時間等については利用者個々のペースで行えるよう、柔軟に対応がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をつくり、同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制にしており、利用者の希望に合わせている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度を楽しむ男性の姿を両ユニット共見かけた。野菜作りや来客時には得意のお琴を演奏する利用者もいる。また、パーティー等企画し、その時にはお酒も飲めるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の会話の中で利用者の要望を聞きとり、外食やドライブ、夏にはビヤガーデンにも出かけている。また、日本財団の招待で鳴門競艇場にも出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの両入り口に鍵はかけられていない。複合的な施設で同じ階に違う事業所があるため途惑われる方もいるが、職員間の連携が出来ており、それとなく誘導し「おかえり」の声をかけるなど細やかな支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが整備され、定期的に勉強会と訓練を行っており、消防署、警察署とも連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の摂取量をチェック表に記録しており、併設施設の管理栄養士に献立もあわせてチェックしてもらい指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候により照明の数を工夫し、テレビ等のトーンも利用者に合わせて調整している。玄関前のパブリックスペースには造り付けのベンチやソファが置かれ入居者が思い思いに過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族と相談しながら使い慣れたもの、新しいが本人の納得されたものを部屋に置いている。また、利用者の要望で夜間のみ使用するポータブルトイレを置いた部屋もあるが、臭いもなく清潔に配慮されている。		